

## 博物館紹介

## 縄文の学び舎・小牧野館



第4展示室 「縄文土器の美」

青森市野沢字小牧野に所在し、縄文時代後期前半（約4,000年前）に作られた日本最大級の環状列石が特徴的な遺跡。それが小牧野遺跡です。竪穴住居などの生活の跡のほか、環状列石で祭祀や儀式に使われたと思われる様々な出土品が多く見つかっています。遺跡の重要性から1995年（平成7年）3月17日に国史跡に指定され、現在、世界文化遺産登録を目指している「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産のひとつです。

縄文の学び舎・小牧野館は、2012年（平成24年）に閉校となった旧青森市立野沢小学校を、2014年（平成26年）に改修した施設で2015年（平成27年）5月にオープンしました。青森市内の縄文遺跡から出土した遺物を展示するとともに、小牧野遺跡及び縄文文化の価値を正しく伝えながら、遺跡の適切な利用の推進を図ることを目的としています。1階には展示室、2階には企画展示室や体験学習室、

出土品の収蔵室等を設け、子どもからお年寄りまで楽しく小牧野遺跡を学ぶことができます。

1階ホールには、遺跡の解説パネルのほか、小学生に人気の発掘調査体験コーナーや環状列石の組立てコーナーがあり、休日には親子連れで賑わっています。

第1展示室のテーマは、「縄文人の暮らし」。土器や石器などの生活道具から縄文人の暮らしを紹介。ゴミや排泄物などから環境問題も考えます。第2展示室のテーマは、「縄文人の祈りと願い」。縄文時代の墓や、祭祀に関する道具・模型などを展示。縄文人の精神世界を知ることができます。第3展示室のテーマは、「よみがえる小牧野遺跡」。市指定文化財を含む出土品や、小牧野遺跡全体の模型などを展示。第4展示室のテーマは、「縄文土器の美」。市内から出土した数多くの土器を時代ごとに展示。土器の文様の付け方や復元も体験できます。

また、企画展に連動したイベントやワークショップも多数開催しており、2月に行った「縄文の匠」では、雪の多い季節にも関わらず、二日間で約700名の方にお出でいただきました。この「縄文の匠」は、青森で活動しているクラフト作家8名が、縄文こけしキーホルダー作りや土偶ローソク作りなど縄文をテーマに作品製作やワークショップを行なったもので、飲食ブース設置の効果もあり、ファミリー層を中心に丸一日楽しめるイベントとしてご参加いただけました。



ワークショップの様子(体験学習室)

5月には、子ども向けに「第1回 ほくの・わたしのストーンサークルコンテスト」を開催。こちらは対象を小学生とし、環状列石の組立てコーナーでオリジナルのストーンサークルを作り、その場で応募。連日、多数の応募があり、慎重な審査をして5つの賞が決定しました。受賞作品は、パネルにしてホールに展示しています。



ストーンサークルコンテストの様子(1階ホール)

9月には、恒例になりました「小牧野遺跡特別講座 ～地域で目指す世界遺産」を開催。こちらでは、青森で活動する民間団体の遺跡活用事例報告と考古学者による講演を行いました。今後も「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録への気運醸成や国内外からの来訪者の拡大を地域から発信するべく年に1回の開催を予定しています。



遺跡活動サークル「こまきのヴィレッジ」

また、小牧野遺跡の認知度向上や遺跡を通じて地域の活性化を図ることを目的に、さまざまな分野で総合的な取組みを推進するため、小牧野遺跡活用サークル「こまきのヴィレッジ」を立ち上げました。在野の考古学者や農家、飲食店経営者、ガラス工芸作家などが運営ボランティアで参加し、「学・食・遊・作・伝・音」の六つのサークルの講師を務めます。こまきのヴィレッジのサークルメンバー（むらびと）になって「縄文」を楽しく学び、体験してみませんか？と呼び掛け、講座やイベントを開催しています。

このように、縄文の学び舎・小牧野館は、「遺跡」や「縄文時代」が持つ、敷居が高く難しそうというイメージを払拭し、子どもでも楽しく分かり易い施設を目指して、笑顔で皆様のご来館をお待ちしています。

(縄文の学び舎・小牧野館 館長 竹中 富之)